

<b>科目名：人体の構造と機能Ⅱ</b> ( Human Anatomy & Physiology [Ⅱ] ) 履修年次/時期： 1年次 前期 授業形態：講義、演習 担当教員：前畑洋次郎（実務経験なし）、飯村彰（実務経験有り）、小口岳史（実務経験有り）		必	2単位
学修目的	解剖学と生理学は、医学の体系の中でも基礎中の基礎となる専門分野である。人体の正常な構造と機能に基づいて病気の成り立ちが理解され、診断と治療・看護が行われる。医療行為には、人体への様々な介入が含まれるため、人体の構造と機能についての正確な理解がなければ、その医療行為そのものが害悪をもたらすことになりかねない。本科目において、解剖学では人体の形態と構造（つくり）を学び、生理学ではその役割と機能（はたらき）を学び、人体において営まれている様々な生命現象を理解する。人体の構造と機能〔Ⅰ〕と人体の構造と機能〔Ⅱ〕で生命を維持する植物機能と生命を積極的に活用する動物機能、および生命の連続性の生殖機能について理解する。 DP1-(1)、2-(1)、2-(2)およびCP 2、3、4に関連する。科目 NO. KSz-114		
到達目標	① 「身体機能の防衛と適応」：皮膚の構造と機能について説明できる。また、生体防御機構と体温維持機構について説明できる。 ② 「情報の受容と処理：神経の構造と機能」：神経の構造と機能について説明できる。神経の局在による分類ができ、中枢神経系と末梢神経系の身体調節について説明できる。反射について説明でき、具体例を挙げることができる。感覚情報の受容と処理について説明できる。随意運動および不随運動の運動情報の伝導路を説明できる。 ③ 「情報の受容と処理：感覚」：皮膚の構造と機能について説明できる。また、生体防御機構と体温維持機構について説明できる。 ④ 「内臓機能の調節」：自律神経と内分泌系による調節の特徴を具体的にあげて説明できる。 ⑤ 「生殖・発生と老化のしくみ」：生殖器系の構造と機能について説明できる。受精と胎児の発生の過程を述べ、内分泌系による調節について説明できる。胎児循環の特徴が説明できる。老化のメカニズムと加齢による生理機能の変化が説明できる。		
授業概要	人体を構成する基本的構造および生命維持のための身体のしくみを総合的に理解する。人体の構造と機能Ⅱでは、恒常性を維持するための調節機構、話す・聞く、眠る、生殖について学習する。人体において営まれている様々な生命現象のうち、生命の積極的に活用する動物機能である「運動と感覚」、人体を保護して種を保存する機能「生体防御」と「生殖・発生・老化・寿命・死」について解説する。		
評価方法	学期末試験 90%、課題 10% ＊学期末試験は各章の到達目標の到達度を確認する目的で実施する。また、課題は教科書「解剖生理学ノート」の作成と活用を評価する。 試験に対するフィードバックは掲示で行う。		
予習・復習時間	【予習】2時間 【復習】2時間		
教科書	① 系統看護学講座 専門基礎分野「解剖生理学」人体の構造と機能1 医学書院 （科目・人体の構造と機能〔Ⅱ〕と共用） ② 解剖生理学ノート サイオ出版 （科目・人体の構造と機能〔Ⅱ〕と共用）		
参考書	らくらく学べて、臨床に生かせる「解剖生理」ポイントブック 昭林社		
お問い合わせ・連絡先	小口 岳史 oguchi@kdu.ac.jp 16:30~18:00 3号館3階 総合教育部 不在時はメールでお願いします。 飯村 彰 iimura@kdu.ac.jp 前畑 洋次郎 月～金曜日 16:30-17:00 場所未定：前畑研究室 maehata@kdu.ac.jp 出張などでオフィスアワーに不在の場合はメールを入れて下さい。maehata@kdu.ac.jp		